

## 令和3年度社会教育主要事業の現況と成果等について

事業名	取組状況	R3成果 (◇) / 課題 (◆)	今後の取組
放課後子ども教室推進事業 土曜学習推進事業	放課後や週末に小学校の余裕教室等やコミュニティセンターを活用し、地域の多様な経験を持つ方々の協力を得て、子供たちと交流を図りながら、全44サークルの学習やスポーツ、文化活動を行っている。 (主な活動) 曳山囃子、民舞、茶道、お花、音楽、スナッグゴルフ、フラダンス、漢字、算数、英語等 ○R3年間延べ参加者数及び開催回数 放課後子ども教室：4,851人、371回 土曜学習：508人、53回	◇地域の方々と異学年との交流の場として、学校や家庭ではできないような貴重な体験となっている。 ◆教育活動推進員の高齢化により、新たな指導者の確保や若返りが求められる。 ◆スポーツ少年団や塾、各種習い事等、放課後を取り巻く環境の変化から一部の教室では参加者が減少している。	より多くの子供が有意義な放課後や土曜日を過ごせるように、サークル活動の内容や対象学年を見直し、放課後活動の充実に努める。
児童健全育成事業 【放課後児童クラブ】	労働等で昼間に保護者が不在となる家庭の小学生に対し、家庭に代わる生活の場として小学校の余裕教室を活用し開設することで、放課後及び夏休み等の学校休業日の安全・安心な居場所を確保し、県認定資格研修を修了した支援員により適切な遊びや指導を行うとともに、保護者の子育てと仕事の両立支援を行っている。 ○22学級：登録児童数819人	◇新型コロナウイルス感染症の影響により学校が臨時休業した期間も含め年間を通して運営を継続した。 ◆児童数は減少傾向にあるが利用ニーズは高く、登録児童数は増加傾向にある。	放課後児童クラブの登録児童数増加に対応できるよう、継続して児童の居場所確保に努める。
児童健全育成事業 【とやまっ子さんさん広場】	地域振興会やNPO法人等が実施主体となり、地域の子供たちが放課後に交流できる居場所づくりとしてコミュニティセンターや公民館等を活用し開設している。 ○8か所：登録児童数455人	◇新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、地域と連携しながら開設し、引き続き児童の放課後の居場所を確保した。	放課後児童クラブで対応しきれない部分で柔軟に対応し活用していく。

事業名	取組状況	R 3 成果 (◇) / 課題 (◆)	今後の取組
家庭教育力向上支援事業	<p>家庭環境や子供を取り巻く環境の課題により悩みを抱える子育て中の保護者を応援するため、小中学生の児童生徒を持つ保護者や親子を対象に、富山大学地域連携推進機構と連携し「いみず親学びスクール」を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な知識を学ぶ講義型講座（2回）</li> <li>・家庭内のコミュニケーション力向上を図るための親子体験型講座（2回）</li> </ul> <p>○R 3 参加者数：59 人</p>	<p>◇アンケート調査では、講義型の参加者の全員が子育ての知識やポイント、新しい発見を得ることができたと回答した。</p> <p>◇親子体験型では、親子で一緒に過ごす時間を確保し、コミュニケーションの大切さを再確認できた。</p> <p>◆コロナウイルス感染症の影響で体験型のうち1回はキット配付のみとなる等、年間の参加者数が減少した。</p>	<p>感染症対策を徹底しながら、引き続き、発達段階に応じた子供への関わり方の学びや、他の保護者との交流・ネットワークづくりの機会を提供していく。</p>
生涯学習活動事業	<p>身近な地域のニーズや地域の人・ものといった資源を的確に把握し、有効に活用した学習活動を展開できる市内全27地区の地域振興会に対し、生涯学習事業を委託し地域特性を生かした学習機会の提供に努めている。</p> <p>○生涯学習講座（27館）</p> <p>R 3 年間延べ受講者数：16,325 人</p> <p>R 3 年間延べ開催回数：727 回</p>	<p>◇コミュニティセンターにおいて、生涯学習、青少年、高齢者、女性など様々な分野の学級・講座を開設し、地域の特色を生かした生涯学習活動を促進した。</p> <p>◇新型コロナウイルス感染症の影響で事業回数や受講者数は低迷しているが、感染防止対策を徹底し活動を展開した。</p>	<p>各地域のニーズを把握し、さらに魅力的な事業を企画できるよう、各地区生涯学習推進委員等への情報提供や研修機会の充実に努める。</p>
成人式事業	<p>新成人の門出を祝福するとともに、社会人として自ら生き抜くことへの自覚を促すよう激励した。</p> <p>R 3 年成人式 9月18日開催 参加者数 443 人 (46.1%)</p> <p>R 4 年成人式 1月9日開催 参加者数 790 人 (82.2%)</p>	<p>◇感染防止対策を徹底するとともに、A R の活用やライブ動画配信等、ポストコロナ時代に向けた成人式を開催した。</p>	<p>成年年齢の引き下げに伴い、名称を「二十歳のつどい」と改め、対象を当該年度に20歳になる者とし、開催時期を、大雪の恐れがなく集まりやすい5月の大型連休中に変更し、事業を継続する。</p>

事業名	取組状況	R 3 成果 (◇) / 課題 (◆)	今後の取組
文化財保存事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種文化財の調査・研究による文化財指定・登録を目指すとともに、曳山車の保存修理事業を行い適切な保存継承を図った。</li> <li>・恒久的な保存活用のため、国重要文化財「石黒信由関係資料」の保存修理に取り組んだ。</li> <li>・片口家文書、柴屋文書、渋谷家文書の古文書の整理のほか、地域の歴史、民俗、文化等に関わる現地調査を行った。</li> </ul>	<p>◇放生津曳山車（三日曾根）及び大門曳山車（枇杷首）の保存修理事業に対して助成を行い、文化財としての価値の維持と安全な巡行を図ることができた。</p> <p>◇国重要文化財「石黒信由関係資料」の保存修理事業に対して助成を行い、文書記録類 11 点や絵図類 39 点、合計 50 点の保存修理が完了した。</p> <p>◇新湊博物館に対し、新たに寄付された資料は 1 件（178 点）、寄託された資料は 2 件（510 点）であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財を適切に次代へ継承するため、各種文化財の調査・研究のほか、修理を必要とする文化財の保存修理事業を行う。</li> <li>・国指定文化財等の保存活用計画作成に取り組む。</li> <li>・文化財の情報を市内外へ広く発信し、市民の文化財保護意識の高揚を図るため、指定文化財等のデジタル化や刊行物の発刊に努める。</li> </ul>
埋蔵文化財調査事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査研究と保存活用の更なる充実に資するため、埋蔵文化財センターを開館し、発掘調査で発見された遺物や調査成果を公開した。</li> <li>・沖塚原東 B 遺跡の現地説明会を開催し、鎌倉時代の遺構や出土遺物を一般公開した。県内外から 95 人の参加があり、埋蔵文化財の普及啓発に効果があった。</li> <li>・『射水市内遺跡発掘調査報告 14』を刊行し、埋蔵文化財の普及に取り組んだ。</li> </ul>	<p>◇埋蔵文化財の保存活用・公開展示の拠点として埋蔵文化財センターを開館し、勾玉、鏡づくり体験教室や発掘調査現場への小学生バスツアーなどを開催した。</p> <p>◇各種開発に先立ち、開発予定地に所在する埋蔵文化財の試掘確認調査を実施し、保護と事業計画との調整を図った。</p> <p>（試掘調査 15 件・工事立会 18 件）</p> <p>◆学芸員(考古学)の人員不足。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作道、荒町・宮新田、大島地区、下地区などの県営ほ場整備事業に係る大規模調査が継続する見込みである。</li> </ul>
国重要無形民俗文化財「放生津八幡宮祭の曳山・築山行事」保存活用事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「放生津八幡宮祭の曳山・築山行事」保存活用計画の作成にあたり、保存活用の方向性について関係者との協議を実施した。</li> <li>・行事 PR のためリーフレット刊行や文化財解説板を新設した。</li> </ul>	<p>◇リーフレット刊行や文化財解説板の新設により、市内外に行事 PR や周知をすることができた。</p> <p>◆担い手が減少するなか、曳山・築山行事を保存継承するためには、文化財保護団体だけでは限界があり、地域社会全体で保存継承を図る体制の整備が必要となる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財保存活用に関する基本的な方針と具体的・計画的な取組を定め、文化庁長官による認定と公開等を通じて、文化財保護団体の主体的な取組と保存継承に対する市民の理解と支援の強化を図る。</li> </ul>

事業名	取組状況	R 3 成果 (◇) / 課題 (◆)	今後の取組
スポーツひのまるキッズ北信越小学生柔道大会開催事業	有名指導者・選手による高い技術や人柄に触れる機会となる「第 1 2 回スポーツひのまるキッズ北信越小学生柔道大会」の開催を支援した。	◇親子の絆を深めながら、児童の交流や競技技術の向上が図られた。	引き続き、トップアスリートとふれあえる大会の誘致・開催支援に取り組む。
富山マラソン開催事業	2 年ぶりに富山マラソン 2 0 2 1 が開催された。沿道では、国重要無形民俗文化財である放生津八幡宮祭の曳山の展示や流鏑馬等で大会を盛り上げたほか、新湊大橋上を折り返し地点とするジョギングの部には、5 0 0 名を超えるランナーが参加した。	◇新湊大橋から望む美しい富山湾や立山連峰の雄大な眺望など、本市の魅力を市内外に P R することができた。	引き続き、富山マラソン（ジョギングの部）を開催する。
スポーツ強化育成事業	国際大会や全国大会に出場する選手・監督への激励金並びに成績優秀者への褒賞金を交付した。	◇市スポーツ大会出場激励金交付件数 団体 1 団体、個人 1 7 4 人	選手が全国大会等で活躍できるよう、選手力向上につながる取組を支援する。
幼児の体力向上支援事業	市内保育園・幼稚園・こども園に指導者を派遣し、幼児に多様な運動遊びを経験させることで運動する楽しさや喜びを実感させるとともに、様々な体の動かし方の習得や体力向上を図った。	◇実施日数：4 8 日、実施園数：1 8 園	多様な運動遊びを経験する機会を提供することで、幼児の体力向上が図られることから今後も継続して支援を行う。
フットボールセンター整備事業	射水ベイエリア東地区に新たな賑わいを創出するスポーツ施設の拠点として、県西部唯一の人工芝グラウンド 2 面を有する射水市フットボールセンターを整備した。	◇国の地方創生拠点整備交付金等の活用や企業版ふるさと納税の支援を受け、整備工事を行った。	オリバースポーツフィールド射水（フットボールセンター）が完成したことから、スポーツを通じた周辺の賑わい創出に向けた取組を推進する。